

<p>○よくかんでたべましょう ○一月の身長体重の測定</p>	<p>行事 ○元旦 ○成人の日</p>
	<p>○年少と同じ</p>

一月の保育所

鈴木とく

勤労者の幼児にとつて、お正月は、最良の楽しみの時と云えましよう。三日、或は暮から五日、一週間と、母の膝の下で過せる時です。

この充ちたりた幸福感の余韻を大切にしたいと思ひます。十日位迄は、どんなに、幼く人の多い保育所でも、出席は、そう多くないと思ひます。この小人数の中は、母の膝のもとで味つた気分をこわさない様な、家庭の正月のあそび、お話し、おやつつくり等で、過させましよう。

十六日の敷入り迄の前二週間は、日本伝承の正月遊びが、自由な気分の中で繰返されてよいと思ひます。保母も共に羽根をつき、福笑いに興じましよう。何処かへお客様に行つた事、お年玉を頂いたこと、暮の餅つきを

みた話から年賀状の話等、種々語り合ひや、生活発表の材料が豊富であり、ストーブの囲りとか、炬燵の囲りと云う、親しみやすい環境の中で、なるべく普段発表の拙い幼児のそれを引き立て、あげましよう。

百人一首の「坊主めぐり」は、年少組の幼児も交つて出来ます。振つて出たさいころの目数だけ進む双六や、福笑い、簡単な絵の単語カルタ等に、進んで入りたがります。

この時、年長の幼児が、年少の幼児を邪魔者扱いにしたり、意地悪したりしない様に、又、年少児が、我ま、を出して、年長児を困らせない様に、そうした気持の訓練は、この様な、家族的な遊びの中で自然にやつて行きたいと思ひます。

一月の保育予定案は？と、まだ、立て、ない方は、あちらこちらと資料あさりをする前に、又、びつちりと、すきもなく保育案の立案のすんだ方も、それを実行にとりかゝる前に、この幼児のお正月の余波の中に入りこんで、その様子の中から、母と共に過せた安定感のもたらずもの、或は、短時日ではあるが、過ぎた愛情のもたらずよくない習慣等、何かと個々に掴みとつて、保育案実行の、或

は立案の資としたいものです。

出席数の少い中こそ、大いに保育所本来の保育に在るべき家庭的雰囲気工夫し、味あわすべきでしょう。

◎年長と年少の交渉について

先に、正月遊びをよい機会として、家族的な遊びの中で、自然にこの事を行いたいと云いましたが、保育所では、どうしても、年長年中、年少の交流がないと、生活の折々に不都合な事が出て来る様です。

長時間の保育所生活

設備の不十分を、人手で補いがちである

年令に應じた遊具が十分でない。

この他いろいろとありましようが、保母が、年令別の組にのみ専心して、幼児の学校教育の面のみ念頭にあつては、楽しい家庭的雰囲気を出さず事は難しい様に思われます。

基礎習慣がよく躰けられた幼児と、その母の協力が、楽しい家庭生活を生み出す事を思うと、保育所もやはり、年令差のある幼児達と、保母の、お互の助けあいがあつてこそ、長時間の生活を變化あり、楽しみあり、で出来るのではないかと思ひます。私のとつてゐる方法が、何かの参考となればよいと思ひ申し上げますが、まだこうしたことをしておられない方は、お正月の遊び等をチャンスとして、時々なさつてみたらよいのではないかと思ひます。時期は、ことさらに一月がよいと云うのではありません。全員が、保育所の空気に慣れ次第、六月でも七月頃でもよいと思ひます。

地域別でもよいし、好き同志でもいゝのですが、私は、いろいろな点で地域別に行っています。母親同志の連絡、協力、それに伴う幼児達の親密感等から。

三人が一番小さなグループで、それが二つ集つて、一つの家族を構成します。その家族が、いくつか集つて、地域を構成します。そして、地域別のグループには、夫々子供達の好きな名前がつけられます。みんなは、何時云うとなく、六人のグループを「お家の方」と云つています。組合せの都合で、お父さんがなくて、お兄さんだつたり、お母さんだけだつたりしますが、年少組の幼児は、いつも子供でなくて、赤ちゃん、と愛称されます。そして、生活の折々にこのグループが構成されます。大体は、共同遊び、食事、おやつ、近い所への散歩、お帰りの誕生会の様な家庭的な行事等の時です。

年令発達を主体とした教育の場では、不都合が多いのですが、自然な遊びの中では、何かと好都合なことがあります。

家族グループで、カルダをしたり、家族合せをしたり、坊主めくりや福笑いをしたりすると、年少児に対して、温い気持ちの表れが必ず出て来る事を信じています。自分がとつた札をあげたり、ミスを笑つてみのがしたり、教えてあげたり等々。

◎後半二週間の保育について

十二月の保育所でも申し上げたと思ひますが、年長児は、年が新しくなつた事と共に、入学迄の最低の事を三月迄に形づけてあげる様、計画すべきだと思ひます。

年賀状の事から、字をかく事や、手紙をかくこと等に興味が集つ

たら「郵便ごっこ」等は誰もが、何処でも、立案する事でしょう。作る事、描くこと、書くこと、数えること、読むこと等のいろいろな事が経験されます。

ポスト、配達カバン（木工、ボール箱空箱利用）

絵葉書、切手、封筒（はさみ、自由画）

便りをする（書くこと）

配達する（読むこと）

この他、帳面と鉛筆を与えられると大変な喜び様です。どの幼児も誰云うとなく「お勉強」と云つて、書けない者も、字らしく鉛筆でなすります。この喜びの中から、名前を、よめる様にきちんと書く練習も生れて来るでしょう。これは与える丈で、一斉に集めて練習させる事は、さげたいと思いません。

数のことは、正月の地方色豊かな、手まり歌や、数え歌、或は、羽根つき、カルタの枚数を数える等種々あります。

一番困難であり、一である事を、+にする約束もこの月には、或る程度実行出来ると思います。

厳寒にむかつて、運動量の多い体育的な遊び、帽子とり、手つなぎ鬼、歌に合せて、ギツコンバツタン、押しくらまんじゆう、スキップ鬼等あります。

木立に冬の芽をさがし、水栽培の水仙や、ヒヤシンス等もよく見ましょう。氷を張らせたり、とかしたりして遊びましょう。

背中を丸めた姿勢、両ポケットに手をつ、こんだ姿勢を、しやんとした状態にある様な遊びや環境におきましょう。暖房の所にばかりへばりついて、お家の寒がりのお婆さんやお母さんの云いつけ丈

を守ろうとする幼児は、保母も寒がらずに、手をとつて、体も、心もあたたまるあそびをしましょう。

悪い姿勢や寒がりは、年長組だけではなくどの組の幼児にも注意が必要で。

年中組の三学期は、生活習慣や、規律、秩序等について、自発的にやれるかどうかを、じっくり観察する時ではないかと思ひます。

遊びに対する保母の根本的な態度を、自由保育に置き、四月から経験させた事が、どの様に、幼児の生活の中で密着して生きているかを、三月迄に、個々に観察する態度がほしいと思ひます。

あそびの展開から云えば、復習の様な形になるかもしれませんが、主題を持たないで、幼児の或グループから起つた事が発展して、クラス全体の遊びになつて行くかもしれませんが、それは、保母の環境設定のしかたにもよりますし、話し合いの時や、生活発表の時の発展のさせ方にもよりますが、なるべく保母の意図する方向ではなく幼児の生活経験から、自然に生れるものをまつて、それをどの様に個人や、グループが自主的に処理するかを眺めたいと思ひます。

この事は、四月から年長組としての生活をす、める上の、大切な足がかりとなるものです。何もしてあげない保育の様で、二ヶ月間を空しくするのはないかと云う心配もあると思ひますが、個人観察の機会には、その事を計画しなければ、保育所の様な所では、何時迄たつても不可能な事になつてしまひます。

こんな計画をする上に必要な事は、経験を繰返す為の、生活の種類とチャンス豊富に掴ませる事と、材料を惜しみなく取り揃え与

える事でしよう。材料については金のか、らない工夫をすれば、そう心配する事はないと思います。

それから、も一つは、この寒さの絶頂の季節に、寒さに負けない意志の訓練と、全身温まる遊びは考えてあげなければなりません。何時も思うのですが、一クラス四十人以上受持ちでは、一日の保育の運びを注意しながらの観察記録は無理ですし、不可能に近いと思いますから、その中の特定の条件の者を二十人位選んで、その幼児についてのみ行う様にしたらいと思います。

実行した保育について、内容別、月別一覽表をつくつて、その中でどんな経験を主眼としたかメモをくつてみましょう。この場合、生活習慣や保健、及び公衆道徳的な生活経験と、遊びの内容となる項目は、別表にした方がやりよいのではないかと思います。

6	5	4	月
		実行した項目を書く	基本習慣及び保健
		この欄には一月二月に於ける自立の度合を、観察した人数の上から全員完全自立とか、半数自立とか記入する	保育が意図した自立の度合
		きまつた場所へ物をおく	団体生活に於ける規律、礼儀秩序等
		お早う御座います	同上
		同上	自立の度合

右枠内の項目のとおり方は、各自の保育案の項目のとおり方によつて違います。

この様な或人数の状況を掴む為に、個人々々のメモを手軽に記入

出来る用紙も必要と思いますが、次の様なものも参考にさせて頂けたらと思います。

6	5	4	月
		目標ととりあげた主材	観察(自然社会) 一月の遊びの生活の中で発見された過去
		同上	言語
		同上	製作
		この場合の材料は、この場合に合わせた	リズム
		この場合の材料は、この場合に合わせた	同上
		この場合の材料は、この場合に合わせた	同上
		この場合の材料は、この場合に合わせた	同上
		この場合の材料は、この場合に合わせた	同上

私は、この事について、厳密さを求める前に、先ず保育所の保母さんが、自分のした過去の保育が、どの様に幼児の中に生きているかを、大体見とおす習慣をつける丈でも必要だと思いますので、全部の事でなくても、自分の観察しよい項目について丈でも、こうしたことをして頂きたいと思ひます。

一日の生活プログラムを、どの様に経験して、自主的に時間の区切りを活動し得るか等は、一日の保育プログラムを合なにする覚悟がなければやれない事であるかもしれない。

この年中組が、一月の後半の遊びについて多分に年長組の影響を受ける事は何処にも見られる事と思ひます。

27年度
月 日 (はさみ、切抜き) ○○組

幼児名、生年月日	直線	簡単な曲線	複雑な曲線
磯野 かおる 24.4.30	○	○	○
山野 明 22.5.5	○	△	×
○ ○ ○			
△ △ △ △			
×	×	×	この欄は文章で記入もします。 例えば 音程がたしかでない
野原 芳美 22.10.30			

絵カルタに興味をもつたり、字に興味を持つたり、自分の名前の字形をそれらしくなすつてみたり、自分も帳面と鉛筆がはしくなつたり、自分名あての手紙がはしくなつたりするでしょう。

焼絵の文字板、二組は、よい遊び道具になり、カルタの役をいたします。

年長児の模倣をすることで、どの程度に、する事、作る事に興味をもつか、やらしてみましよう。

雪や氷の自然に恵まれた地のお友達を想つて雪にちなむお話をき、雪の歌をうたつたり、氷すべりの曲をきいたり、歌をきかして上げたりしましょう。太鼓なり、タンバリン等で、全身で表現する様

な、拍子感、速度及び強弱感の練習を、遊びの中にとりいれましよう。体もあたまも、リズム感覚も養われて面白い遊びとなる事と思ひます。

年少組についても、年中組と同じ様な態度をとりたいと思ひますが、この年齢に於ける基礎訓練がもたらすものは、年中組での生活の困難な点が少い事で表れるのですから、表面だけの綺麗な事をさけて、どの項目に於ても基礎訓練のつもりで、それを無理なく、進める方法をとつて頂きたいと思ひます。

子供達の様子を見て、材料を加え、又は高化させて行き、その遊びの発展を見て行く方法をとる以外、標準的な例など申し上げるものもありません。

家庭に対して

○小学校入学の準備に対する細い打合せ事項

○保育園でしている方法、家庭でして頂きたい方法について

○お正月以後のお小遣の状況について、もし無駄づかいがはげしくなつた様だつたら連絡して頂くこと

○貯金する事の興味が出来たらさせる様に、何か目的をもつて

○余り炬燵や、あんかの中にはかり入れておかない様に

○寒いから、風邪を引くから、と入浴させないで、垢だらけにして

おくのは、風邪引のもとだと云うことを知る様に

○年少児、赤ちゃん、下着及び上着のきせ方の指導を繰返し行う